



日ごろからの備えは継続的に！

12月16日、「マグニチュード（M）8以上の後発地震への備えを呼びかける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について、政府は午前0時をもって対象地域への特別な注意の呼びかけを終了しました。政府は「突発的に大規模地震が発生する可能性もある。日頃からの備えを引き続き実施してほしい」と呼びかけています。

東京大学大学院総合防災情報研究センターの関谷直也教授は、今回の注意情報について以下のように指摘しています。

- ◆そもそも北海道・三陸沖後発注意情報が、**どこの地域の何のために呼びかけられている情報だったのか、それが事前に十分に周知されていなかった。**後発地震注意情報の理解を広げる必要がある。
- ◆最悪、「東日本大震災クラス地震が起こる可能性がある」と少しでも思って対策を取れば、より多くの人々が救えるかもしれない。そういうきっかけを与えるべき情報である。
- ◆「今回の臨時情報の発表を受け、『混乱するな』とか、『普段通りの生活をしろ』というふうなところばかりが今回、強調されてしまった。「普段通りの経済活動」と「大地震への備え」を同時に呼びかけることに、伝える側の難しさがあった。
- ◆抑制的になりすぎるよりは、**本来の防災対応のための行動をみなさんにとってほしかった。**そのきっかけとすべき情報だということを改めて考えてほしい。

減災や防災について「正しく恐れて、正しく備えることが欠かせない」と言われています。**今後、大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではありません！**「避難場所や避難経路の確認」「家具等の固定」など、「日頃の備え」は継続的に行っていきましょう。

北海道・三陸沖
後発地震注意情報

終了